

韓日未来フォーラム報告書 歴史教育チーム 中 秋穂

2019年12月26日(木)～12月28日(土)



○内容

日韓の大学生が新大阪に集い、「日韓のメディア問題、日韓の就労問題、歴史教育の違い、慰安婦問題」の4つのテーマについて、グループごとにわかれ討論した。

歴史教育の違いでは、まず、各々が持参した日韓の歴史教育について発表しあった。そこでは、「韓国と日本の歴史の認識の差異、歴史教育をする目的、日韓それぞれの歴史について関わる機会の提供方法の提示、日韓の歴史教育の教科書の違いについて、歴史の教育方法について、日韓共に政治上発展している今問題は歴史なのかどうかについて、今の日本の学生は日韓の歴史に対して何を考えているのか」という点が上がった。

そのうち「日韓における歴史教育の違い、教科書の違い」に焦点を当て討論を進めた。

・1日目

韓国側からの意見が多く、日本側は知りたいという声が多かった。

まず、上がった情報として、韓国の歴史教育に関して、小学1年生から歴史教育に触れる機会がある。時系列で原因と背景、その説明を植民地の前から国内外総合的に学ぶ。そのうち日本がより近い存在で学ぶため他国に比べて特殊国家という認識がある。詳しく学ぶため、その時の人々の感情に応じた感情的な面も生まれる。

日常でも歴史教育について意見する機会があるので、歴史と共存しているようだ。日本に対する意識も各個人が考え、決めていく。反日感情の芽生えのあるものとなないものがある。

こういった教育から韓国人の学生の間でも日本について話すとなれば決まった一つの答えがあり、それを共感する形(悪い面)になっている。また、歴史は今の政治と関連性が強くあり、政治家はそれらの出来事から関連させることで国民の信頼感を得ているとも言える。

日本に対してもなぜドイツと同じように反省しないのかという声も上がっている。

これらを元にして、日韓における歴史教育の違い、日韓それぞれの歴史教育の長所短所、事例、解決策の流れで発表の順序が出来上がった。



写真1 1日目の討論の様子

・ 2日目

グループ内でPPT、調査、発表の3つに役割を分担し、それぞれに分かれて情報を交換しながら行った。

発表チームでは、再度発表の形(イントロ、序論、本論、結論)をまとめ、言葉・文字を修正しながら流れを作成した。ここで、日韓のそれぞれの言語で発表するにあたり、言葉の伝え方に差が出てしまわないように言葉の面をしっかりと確認しながら行った。

以下が、グループ内共有のためのホワイトボードと役割別で準備の様子である。

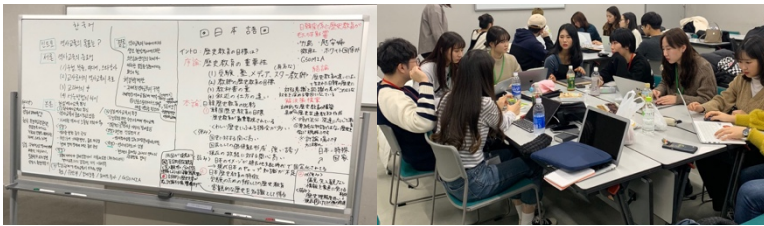


写真2 発表内容共有

写真3 役割別準備の様子

・ 3日目

発表では2日目に発表を担当したものが壇上に上がり説明した。

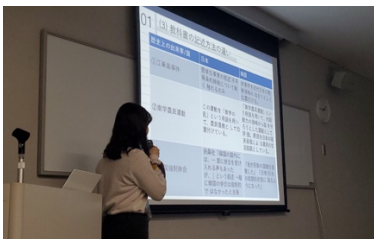


写真4 発表

○反省点・改善点

・ 歴史教育チーム内

全体的に積極的な発言があり、それが基準となって今回の討論が動いていた。それについては、このような思い題目の中で物事を進める上での活気がありいいと感じたが、「ではそれに対して他の人はどう思うか?」といった少し消極的になっている他者への配慮が少なかったため話す際の周りへの配慮の必要性を考え直すべきだと考える。

・ フォーラム全体を通じて

明確な指示の少なさが目立つと感じた。例えば、参加者が見通しを持てるように何時まで何をするのか事前に知らせること、1日最後の集合内で次の日の全体の動きを伝えておく等、全体の動きをもっと円滑にし、時間の有効活用をするためにもこのような改善方法を提示する。